

かえって福音の前進に 役立つと信じて

教育局長 小川 宣嗣



「さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったことを知ってほしいのです。」（ピリピ 一・12）

新年度4月、本来なら希望にあふれた新たな進発の時です。しかし今年は、非常に変則的な年度の区切りとなりました。新型コロナウイルスが世界に拡大し、わが国も含めてそのもたらす影響の深刻さは計り知れません。その中で聖宣神学院の卒業式は中止、また大きな期待と祈りが寄せられ準備が積まれて来た第75次年会も中止を余儀なくされました。新しく整えられた神学院を会場に、本当に久しぶりに牧師家族も皆で集まるファミリー年会、中高生とにフェスと聖会のコラボ、信徒局・教団活動支援部による初めての裏方運営など、画期的で大きな恵みの機会となるはずでした。伝道者一同にとっては、1年任期の区切りである年会に集まり、霊的な整えや任命を受けて派遣される大切な営みなしに新たな年度の奉仕を始めなければならないことは何とも不自然な感覚です。各教区・教会においても諸集会の自粛や休止、計画していたプログラムも断念あるいは延期をしなければならず、「せっかく準備して来たのに……神様どうしてですか!」とため息をつきとなる場面が多かったことでしょう。

教会の働きや福音宣教において、表面的にはとても残念でマイナス影響が生じるに違いない場面で、「それでもこれがかえって福音の前進するチャンスとなる」と獄中から告白し、私たちを力づけてくれる使徒

パウロの言葉を改めて思い起こしましょう。

▽パウロが牢獄という場所で、それまでは接することでもなかったローマ親衛隊やその他の人たちに福音を証しする機会を持てたことです。投獄という制限や不自由は別の人々へのアプローチの扉となっています。

▽パウロの投獄という悲しい事件が、教会内の兄弟たち・仲間たちの心に、宣教への強い重荷や関心を呼び覚まし、より活発な働きが展開されて行きます。ウイリスの非常事態で、教会に集まったり賛美したりすることが困難になる中で、当たり前になっていた教会や礼拝への意識は高められ、その価値の再認識へと導かれていくのではないのでしょうか。

▽パウロは、自分が牢獄の中にいることで人々の心の動機が刺激され、中には善意や愛からではなく妬みや競争意識から宣教している人がいるとしても、とにかくキリストが証しされるならそれを喜ぶと言います。残念な状況に渦巻く人間的な動機や思いや行動すらも、教会の祈りと御霊の助けはそれらを超越して働き、福音の前進へと転換されることを信じましょう。

いよいよ今月第一週は受難週を歩み、第一聖日には栄光と勝利の復活を賛美するイースターに臨みます。不安と恐れ、制限や圧迫の中でより深く十字架の恵みを想起し、また主の復活のもたらす希望を捉え直して、「この状況、またこの小さな私すらも、真の福音の前進のためにお用いください」と祈れたら幸いです。

目次

- かえって福音の前進に役立つと信じ……小川宣嗣…1
- 年会中止とこれから、新型コロナウイルス対応……2
- 長崎教会献堂式報告、神学院卒業生紹介……3
- 海外トピックス、国内教会局、出版事業部から…4
- 西日本ブロック近況と祈りの課題、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

年会中止に伴うお知らせです

年会の中止 そしてこれから 祈っていたきたいこと



教団代表 内山 勝

何とか開催できる道を探ろうとした末の苦渋の決断でしたが、そうするしかなかったことが時間の経過と共に明らかにされました。

＊

さて、今年会では、私たちが「キリストにあつてひとつであること」を確認したいと願っていました。牧師と信徒、信徒と信徒、年配者と青年、男性と女性など、すべての関係において、私たちは同じチームの仲間であつて、敵ではありません。それを体験するために、青年たちとコラボの聖会を企画したのですが実現には至りませんでした。どうかこの願いをお汲み取りください、教会、教区、教団で実現して行くではありませんか。今直面している大きな困難を用いて、主が、私たちをひとつにしてくださいますように。

＊

年会は、改めて、6月8、9日、神学院を会場に、規模を縮小し、事務年会という形で行われます。2011年の東日本大震災の前例に倣うものとなります。教団運営委員と教区主事に、常置委員長などを招集して実施しますので、よろしく願います。

この年会では、特に2021年に予定している第22次総会に提出しようとしている条例改正方針を説明すること、総会開催に必要な手続きとして代議員定数の確定をしたく願っています。

前後してしましますが、年会前に行われる各地の教区会では、前

倒しでこれらの課題を話し合っていただけでは幸いです。

＊

教会任命は、当初の年会任命式の時期に合わせて、文書で配布されました。新任、転任の先生方と諸教会に、格別な神さまの恵みと助けがありますように。また、このたび引退された渡辺昇・宣子師（札幌）、橋本千尋師（狭山）、松村伊作師（北九州）のこれまでの尊いご功に感謝し、併せて天父のお報いを祈ります。

＊

さて、最近冒頭の聖句が心に通っています。私たちは、これが最善であると考え、祈り、信じて実行しようと思いますが、時として無惨にもすべての計画が壊れてしまうようなことが起こります。今年会もそうでしたし、各教会でも通常の教会の営みができなくなつて、かなりのダメージを受けておられるのではないのでしょうか。

そんな中で、このみことばを思い巡らすことが大切ではないでしょうか。思い通りに、計画通りに進むことが祝福とは限りません。むしろ計画が頓挫する中で、私たちの主がどなたであるかを捉え直す機会を与えられることは幸いです。

人の思いを超えて、神さまは遙かにすばらしいことをなさいます。主のみことばだけが成るからです。もう一度気を取り直して、「主のみことばであれば」と遡り、全面的に主に期待しようではありませんか。共に祈りましょう。

新型コロナウイルスにどう対応するか

アンケート集計結果から

感染拡大に備えて 礼拝者としての自覚を

国内教会局 岩上祝仁

「私は、……キリストの苦難にもあずかつて」（ピリピ三・10）

新型コロナウイルスが蔓延し、世界的に深刻な影響が広がっています。2月中旬に安倍首相により全国の学校に休校の要請が出されました。以来、日本全体が自粛モードに入りました。そのような中、2月末に国内教会局では教区主事を通じて全国教会へ緊急アンケートを実施しました。そのアンケートから見えてきたことは、各教会毎にそれぞれに祈りつつ、対応を取っておられるということでした。各教会にはそれぞれ対応に幅があります。まずそのことを覚えておきましょう。お互いの教会のために祈りましょう。特に教区毎に情報を交換しながら、祈りによる交わりを進めてください。参考までにその状況を大まかにまとめます。

イムマヌエルの諸教会の中で通常の活動をしている教会もあり、感染への対策として、換気を行ったり、手洗いやマスクな

どの対策を注意深く行いながら礼拝を守っています。（24教会）

そして、イムマヌエルのほとんどの教会では、礼拝のみ、あるいは礼拝と祈禱会のみに限定して対応しています。昼食や愛餐はとりやめ、日曜日午後の集会も中止となっています。（7教会）

感染を防ぐために教会活動を自粛し、家庭礼拝を行っている教会があります。礼拝に集まることを自粛している教会は19教会です。インターネット配信など同じ礼拝を捧げることで家庭礼拝をサポートしています。これらが3月初めのイムマヌエル教会の現状です。

4月以降も、感染が拡大することとを想定して備えることが必要です。他の国々で実施されているように、礼拝や集会の自粛が要請される可能性もあります。ですから今のうちに十分な備えをしたいと思えます。教会に集まって礼拝を守ることができなくなり、一人で守る家庭礼拝に切り替わったとしても、この困難な状況の中で「礼拝者」としての自覚を保ち、お互いに祈ることで信仰の交わりを継続していきましょう。「教会が教会であり続ける」ために、祈りつつ、考えて取り組んでいただきたいと思えます。パウロは「キリストの苦難にあずかる」ことをコイノニア（交わり）だと表現しています。キリストの苦難に参与し、お互いの信仰を支え合い、励ますために力を結集するイムマヌエルの群れでありたいと思います。

献堂式

長崎教会

人の思いを越えた神の御業



坂田 秀孝

新型コロナウイルス感染症が懸念され、自粛の波が押し寄せる直前の2月24日、献堂式を執り行うことが許されました。

主の尊いお計らいと先生方、聖徒の皆様のお祈りを心から感謝致します。当日は天候にも恵まれ、九州教区の先生方や信徒の方々、長崎キリスト教協議会の先生方や信徒の方々、ミッシェンスクールの理事長や宗教主任の先生方がご参列下さり、75名の参加者による賛美と感謝が新会堂に溢れました。代表の内山勝先生より第一列王記一八章30〜39節「王こそ神です」とメッセージが力強く語られ、心の籠った祝辞や続く感謝の時、先生方の心温まるお言葉に教会員一同、大きな感謝を覚えました。

■新会堂に至る経緯

前任牧師により建設された会堂が白アリ被害に遭い大修理工事がなされた折、さまざまな不備が指摘され、将来的に建て直しの必要が生じました。2012年、現牧師が赴任し引継ぎがなされました。2016年、九州電力の点検時に「漏電の恐れ」が指摘され、そ



年の12月、夜10時頃にイルミネーションが炎上、通行人の知らせにより事なきを得ました。雨漏りもあり、アンケートを実施、役員会において、会堂献金を見直して聖別し、会堂再建に向けた取り組みを確認しました。年間の会堂献金約30万円が、翌年は140万円の献金となり「手ほどの雲」と感じました。しかし、2018年の夏、思わぬことが起こり、一旦主に委ね、会堂再建は先送りになるだろうと思われた秋

纏まった会堂献金が献げられました。その後、さらに纏まった献金や月々の献金に加わる方々もあり人の思いを越えた神の計らい神の不思議を実感しました。前任牧師から引継いだ約277万円の会堂献金が1,380万円となった2019年1月、教会総会に於いて再建に向けた呼びかけがなされ、それに対して1,320万円の予約や一時献金が2月中旬までに与えられました。既にアンケート等で教会員の再建に対する願いや思いは固まっており、本部に会堂建築の意向と融資の依頼を送りました。しかしその後、予約の増額、個人融資の申し出があり、融資は受けず「私たちのできる範囲で身丈に合った会堂を建てること」で一致しました。5月中旬に本部の建築許可が下りコンペがなされていた5社の内の1社と契約。7月



10日解体、8月4日定礎式、12月13日完成。引き渡しと共に建設会社への感謝の時をもちました。教会員の願いや提案が反映され、旧講壇の後ろにあったキューブガラスは玄関ホールに設置。礼拝堂で使っていたベンチはカトリック仕様でしたので少し手直ししました。

■会計報告

総工費、39,029,436円の内、建築費30,556,568円、解体工事費2,750,000円、設備費他3,827,890円、繰越金1,894,978円で、これまでの積立その他の献金13,109,498円、一時献金22,669,938円、個人融資3,250,000円が充てられました。全ての必要が満たされ、主の御名を崇めます。新会堂が宣教活動に尊く用いられますようにお祈りください。



聖宣神学院から……

5名の卒業生を紹介

神学院院長 河村 從彦

第67期卒業式は、新型コロナウイルスの影響で中止になりました。卒業証書は、イムマヌエル生は本部で辞令交付に先だって授与、他教団の卒業生は神学院で、あるいは郵送で授与しました。卒業論文はそれぞれ大変興味深いものでした。以下、卒論のテーマ(二内)と共に卒業生をご紹介します。 峯尾仰生兄(正規コース・集中履修制度、別府教会出身)、「主にある一致を目指して、世代間相互理解の視点から」

中尾敬一兄(修了者コース、青春教会出身)、「神の宣教」と宣教。パラダイム・クリストファー・ライトの宣教論とデイヴィッド・ボッシュのパラダイム転換」 竹内俊之兄(正規コース、高津教会出身)、「花巻に咲いた、福音の花」斎藤宗次郎と花巻の人々」 秋田郁美姉(正規コース、日本フリーメソジスト町田福音教会出身)、「共同体としての教会のための聖餐式」聖餐の重要性についての考察」

大村真実姉(聴講終了、都築ニュータウンチャペル出身)。それぞれ奉仕の場に出て行きます。お祈りください。

国内教会局から

教会建設の務めに 主は恵もうと待っておられる



今から3年前、第7回さ
ふらん会のリトリートが終
わる日に、次回は合同リト
リートとして開催すること
で一致しました。オリーブ
の会と引退牧師も含まれて
いました。また参加されな
かった女性牧師からも「高

齢化が進み牧師数の減少の
中、今の時代のために女性
牧師が立場を越えて互いを
理解し励まし合い、心を一
つにして奉仕に励んでいく
ことを願っている」という
声が届いていました。今年
それが実現し感謝です。
神学院卒業後はそれぞれ
の任地で奉仕に励みつつも、
立場の違いが気持ちの上で
距離を生じさせていました。

しかし主の恵みは時の経過
と共に次第に距離感を除い
てくれました。
主の恵みの中でお互いを
理解し、この時代に喜びを
もって奉仕するために必要
な備えを「講演や分科会、
交わり」を通して与えられ
ることを期待しています。
ひととき忙しさから離れ恵
みの機会に身を置かせて頂
きましょう。
(黛睦子)

■米聖書博物館所蔵の「死海文書」
はすべて偽物と判明
紀元前三世紀頃に作られたヘブ
ライ語の聖書の写本『死海文書』

「全ての選択肢について祈り検
討した結果、現在と将来予測され
る在学生数と財源では、大学がそ
の使命を果たし続けることは不可
能と判断した」と、トム・ライズ
理事長代行は2月10日の声明で述
べた。約10ヘクタールのキャンパ
スは売却予定。学生の転校には援
助するという。

■春学期でコンコーディア大学
ポートランド校閉鎖
米国で厳しさを増す、大学特に
キリスト教大学が直面する存続の
危機がまた一つ顕在化した。創立
115年の米ルーテル派系コン
コーディア大学ポートランド校
(オレゴン州)がこの春学期を最
後に4月25日閉鎖する。負債が山
積している実情では、他に選択の
道はなかったと見られる。



海外トピックス

断片が市場に流通、収集家などの
興味の対象となっている。21世紀
に入って断片が古書・古美術品市
場に流通するようになり、その真
正性に疑義が出され、「聖書博物
館」に収蔵されていた断片も、偽

のうち、米国の首都ワシントンに
ある『聖書博物館』で展示されて
いた16断片すべてが偽物と判明し
た。
『死海文書』の大部分がイスラ
エル政府の管理下にあるが、その

造の可能性が指摘されていた。
調査を行ったのは美術品の真偽
確認調査を行う『AFI』の創設
者でもあるコレット・ロール氏た
ち。数々の科学的実験を経て作
成された最終レポートにより、博
物館収蔵の16点の『死海文書』断
片すべてが偽物であることが報告
された。レポートによれば、断片
はいずれも現代になってから作ら
れたものだったとのこと。オリジ
ナルの『死海文書』のような羊皮
紙の光沢や、洞窟で見つかったこ
とを想定しての鉱物で汚したりす
るなど、明らかに欺く意図が感じ
られるものだった。『聖書博物館』
のジェフリー・クロハ館長は、「コ
レクションの真正性を検証するた
めに用いられた手法は、他の疑わ
しい断片に光を当てるもので、さ
らに偽造を誰が行ったのか明らか
にするために効果的」と、今回の
調査が聖書考古学の分野に利益を
もたらすものであったと主張して
いる。
(平瀬聡樹)

出版事業部から

今年発行予定の本を紹介 聖書通読の本も出ます



出版事業部 川村和臣

いつも出版の働きのためにお祈
りご協力を感じたいします。

昨年は『聖化―聖徒はつくら
れていく―(再訳・新装版)』を発
行しました。感謝なことに多くの
教会でグループの学び等に用いて
くださっています。年末に『ここ
ろCite』の電子版を発行しまし
た。若い方々にもプレゼントしや
すいようになっています。こちら
もぜひご活用ください。

*

本年度も幾つかの書籍を出版の
予定です。

来月末には『祈りのネットワー
ク2020』が発行されます。ゼ
ひ全国の教会・宣教地のためにお
祈りください。

現在、聖書に立脚した信仰の育
成のために、救いから信仰の確立
の助けとなる書籍を刊行していま
す。すでに信仰の建て上げを目
指しての『信仰教理問答』、きよ
めの学びのための『聖化』を出版
しました。今年は、聖書通読の助

けとなる聖書解説の書籍を発行予
定です。長年親しまれてまいりま
した『わが足のともしび』の全面
改訂版を、新しい聖書の翻訳にも
携わられた岩上敬人先生が『わが
道の光』(仮題)として66巻の聖
書をまとめてくださいます。聖書
の学び、ディボーションの手助け
として有益なものとなるでしょう。
年末にはお届けできる予定です。
ご期待ください。

また、夏ごろを目指して品切れ
となつています『エマオの道で』
の再版を準備しています。引用聖
句を新改訳2017に変更し、全
体的に翻訳し直して読みやすくし
ます。こちらでもご期待ください。

長らく親しまれてきましたイン
マヌエル讃美歌は今年度に品切れ
となる見込みです(当面はまと
まった注文にはお答えできません
のでご容赦ください)。讃美歌に
関しては毎年100曲程を目途に
データベース化を行っています。

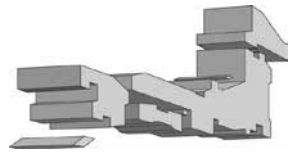
電子書籍も多数発行をされてい
ます。特にディボーション関係の
書籍などいつでも読むことがで
きとても便利です。

『つばさ』は昨年より編集者が
変わり若い先生方によるチームと
なりました。斬新な企画などを始
めています。

今年からリーフの割引制度も始
めました。伝道のために用いてく
ださい。

出版についてのご希望、ご提案
などありましたら、出版部までお
問合せください。

国内教会局 スクエア



西日本ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

大兼久 芳規

西日本ブロックでも新型コロナウイルスにより礼拝に戦いを覚える教会、礼拝のみに集中する教会、また通常の営みが守られている教会と、地域によりそれぞれの戦いが進められています。

〔近畿教区〕

彦根教会では、讃美歌コンサートや映画会などが行われ、その中から求道者が与えられ御名を崇めています。

草津教会は、関西聖会が地元で行われ、教会員の多くの出席が許されました。

京都西、伏見教会では、年に数度の合同礼拝を持っています。アンドレア宣教師は、5〜9月まで報告のため帰国されます。

枚方教会では冬の聖会が祝福されました。戸谷先生が病との闘いの中にあります。治療と健康が祝されるようお祈りください。

高槻教会も、自身の教会に加え、京都西の応援を何度も行い、支えていくでさいます。

豊中教会は、高齢の求道者や施設への伝道が進められています。大阪伝法教会は、土曜日のジョイ

年を越え、青年の信仰の確立に力が注がれています。また家庭集会や例会を通して、信仰が育てられています。

高知教会では、多くの高齢の方が家庭集会や礼拝に集われ、主に近づけられています。

松山教会は定期集会に加え、近隣大学でのチャペル奉仕、また異端対策への学びが積みまれています。今治教会はホームページが開設され、外に向けての案内が始まりました。礼拝後には大人も参加しての教会学校が続けられています。

徳島教会では新しく牧者を迎えました。親の会、ゴスペル教室を通して伝道が果敢に進められています。

高田教会は、幼稚園との兼任の中、伝道が進められています。

和歌山教会では、子供たちへの英語教室が始まり、ゴスペル教室も用いられています。

神戸教会では、大きな屋根の工事も終わり、ユースの確立と地域への伝道が進められています。

加古川教会では健康的な戦いの中を通られる方がおられる中、子供たちへの伝道も祝されています。

姫路教会では、会堂の内外が改装されました。インターン生の働きも祝されました。

今秋の関西聖会は「光の中を歩む」こととともに「」をテーマに南場先生、朝比奈先生が御用ください。またユースとCSは独立しての聖会プログラムです。

〔四国教区〕

香川教会では、昨年の献堂20周年を越え、青年の信仰の確立に力が注がれています。また家庭集会や例会を通して、信仰が育てられています。



燭台

バランスをとる難しさ

▼武漢で発生した新型肺炎はアリの一穴が長堤を崩すように、それから2か月近くたった現在では世界中に広がり、ついに3月12日、WHOからパンデミックの宣告が出されました。経済的にも大きな打撃を受けています。3月4日に宮崎市内で感染者が一人報告されました。全国の学校に休校が要請され、集会やイベントも次々と中止になりました。▼宮崎教会はふだんから礼拝に来るために公共交通機関を利用することはなく、有難いことに出席者がギュー詰め座席状況でもなく、礼拝が終わればさささと帰宅するので、注意はしながらいつも通りにと考えていました。しかし、教会も社会の一員であり、感染を避ける配慮が必要とされます。教会員の安心と安全のため、また周囲への証しのために礼拝を二回中止にしました。▼相手は目に見えないウイルスという厄介者です。目に見えないことは人間の想像の中で得体の知れない恐怖となります。平穩無事で何事もない時には神様の守りを信じることは難しくありません。しかし、このように世の中全体が見えない恐れに支配されている中

で、自分たちの信仰と社会の現実をどのようにバランスをとって受け止めて行動するのか問われる思いです。ある方は当然中止すべしとの意見、別の方は注意した上で神様の守りを信じると。▼今あらゆる分野でトップは決定を下すことの難しさに直面しています。かつて私は身に迫る危険の中で与えられた「災い汝に近づくず」の主のみことばを信じ続け、その通りに危険が大きく見える時に、それでも目に見えない神様の守りの現実を捉えるのは信仰です。しかし、一方で「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に」と答えられたイエス様は、地上の政府に税金を払うことを認められたお方です。▼どこで折り合いを付けるのか、どのように信仰を働かせるのか、迷います。私は医師を信頼して治療を受けますが、癒しは神様の範疇にあると思っています。コロナの危険においても、主は生きておられ、神様の約束は真実であることを思います。その上で専門家の注意を聞き、責任ある対策を取るべきではないかと考えています。

(高梨 恂子)

巻頭言

御霊によって禁じられたので



世界宣教局長
梅田 登志枝



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

「彼らは、アジアでみことばを語ることを御霊によって禁じられたので、フリギア・ガラテヤの地方を通って行った。……ピテニアに進もうとしたが、イエスの

御霊がそれを許されなかった。」
(使徒の働き一六章6-7節)
例年ならばこの季節は新学年、新社会人など、新しい世界に進もうとする喜びの時です。ところが今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、多くのことを諦めたり、先延ばしにする忍耐を強いられる春を迎えました。礼拝をはじめ集會出席を教員に励ましてきた牧師が、出席自粛をお願いするばかりでなく、活動休止の決断を迫られる事態にまでなっています。

この「禁じられる」危機に直面しパウロの経験の思い起こします。
◇禁じられた事で神の幻を見た
パウロは第2回の伝道旅行でリステラから北方面のアジアでの宣教を願っていたようです。けれども御霊に禁じられ、西方面へと向

きを変えざるをえませんでした。神様はパウロには推し量ることのできない計画をお持ちでした。それはパウロにマケドニア人の叫びを聞かせるため、たどり着いたトロアスでなければ聞こえない人々の福音への渇き、叫びを聞かせるためだったのです。

◇禁じられた事で宣教は進展した
マケドニアの主要都市、ピリピでのパウロたちの宣教はローマへと向かうヨーロッパ宣教の始まりとなりました。御霊による禁止は、リディア家族や牢の看守家族を救いへと導き、宣教者パウロに協力的で愛に溢れたピリピ教会を誕生させたのです。

世界には政治や宗教また内乱などの理由で、礼拝が自由に守れない国々があります。差別や迫害を受ける信仰者もいます。日本には信仰の自由が与えられていても、今は目に見えないウイルスによって、集會出席が阻まれるという信仰の戦いを経験していると言えるでしょう。またこのウイルスには、教会内で対策についての対立や反目を起こす力さえあるのです。

けれども、すべての出来事は神様の御手にあることです。人間には不可解なことであっても神様は明確な理由と御計画をお持ちであることを信じましょう。御霊が禁じられる事の中にも、パウロのように神様の幻を見失わず、聞くべき声に耳を傾け歩むならば、神様はご自身の宣教の働きを前進させてくださることを期待しましょう。



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2020年3月11日

「主はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。」(ミカ六章8節)

春節前後より、新型肺炎の世界大の感染広がりに先がけ、台湾政府当局がとる防疫対策・対応の迅速かつ的確さが際立っており、総統への支持が急騰しています。台湾は、2003年のサーズの経験と反省を踏まえ、独自の取組み・政府直轄の研究・対応チームを立ち上げており、今回も未確認ウイルス発生の情報を受け、即座に専門家チームを現地入りさせ、実地で情報を入手していました。その情報分析をもとに水際対策のみだけでなく、国内の封じ込めをはかり、今のところ大きな効果を生んでいます。その一例をご紹介しますと、マスクや消毒用アルコールはいち早く、国が一括管理し、実

名制(日本の国民健康保険に相当する「健保カード」提示で)国民に安価で販売しています。マスクの輸出、転売は原則禁止、海外からの出入境の徹底管理と健保カードを出入国履歴にリンク付けし、入境後の動向、医療機関の受診状況を完全に把握・制限し、携帯アプリによる全国薬局の一覧と在庫表示のタイムリーな情報提示、学校の休業延期、その間の防疫対策・指導、休業明けの開校規定の詳細明確化、厳格遵守化などです。SNSやハイテク機材を総動員、駆使し、次から次に、より良い新たなシステムが構築されています。

現状では毎朝マスクを求めて薬局の前に並ぶ行列を見かけはしますが、一日待てば必ずどこかの薬局で入手可能な状況で、来週からは、仕事や学校などで並ぶことが難しい人のために、ネット予約で入手できるシステムが導入されることとなり、これに伴いマスク入手問題はほぼ解消しそうです。そのような中、市内の感染拡大はほとんど見られず、マスク着用や施設、商店、市場の入り口に消毒用アルコールが常設・常備され、エレベーターのボタン、ドアの取っ手にはビニールカバーが装着され、毎日交換・消毒されるという防疫対策が徹底されています。情報を正しく把握・提示し、しっかり警戒、対応をしつつ通常の営みを守るといふ形での生活をしています。教会の向かいの小学校にも子どもたちが戻り、元気な声がこだまし

ています。

教会でも十分に警戒、リスク対応を取りつつも、台中教会では教会員や関係者の出入り・動向がハッキリしているため、自己管理、自主規制にゆだねて通常どおり聖日礼拝、祈祷会を守っています。台南の教会では、大規模な集会では会衆席ではマスク着用、一つ席をあけて座するというような具体的な対応が取られているようです。

そのような実情の中、高齢者の愛兄弟が欠席せざるを得ず、さらに老人ホームや入所施設への外部からの訪問者の立ち入りの禁止、面会停止措置が徹底・継続されており、どのようにして信仰の交わりを持ち続けるか、霊的な渇きに応えるかが大きな課題です。改めて教会全体で考え、取り組むべき信仰のチャレンジとなっています。

どのような対応ができるかを思案していたある日、このような話を耳にしました。ある方は以前訪問した時にカセットテープを愛用しておられたことを思い出して、自宅の倉庫にあった古びたレコーダーを持ち出して收音し施設入所の家族に託したところ、すぐに礼拝を聞くことができました。カセットからCD、MP3と音源媒体が新しく変化しながら、かつての使い慣れたものの方が受け取り手にとって使いやすいと重宝がられるということでした。

台南ではネットでの中継をすでに導入し、幾人かの出席の課題のある愛兄弟が愛用しておられたこ

とが大きな助け、補いとなっています。配信する側の便宜と共に、受け取り手の環境、実情を踏まえて対応することが求められています。誰もが何らかのストレスを抱えている中、自分のことだけでなく弱さを覚えている兄弟のため、止むを得ず集会出席が許されない信仰の友のために何かができることはないか、何をするのが助けとなるかを考える自分のできることを進めています。一日も早い終息を願い求めつつ、主のみ守りと支えを実感しています。引き続きお祈りをお願い致します。



根廻恵子 * 2020年3月4日

新年の2か月が経ち、改めて時の早さを感じています。ザンビアではまだコロナ感染症者の報告は出ていませんが、コロナに備えてWHOが発展途上国にもガイドラインを出しているようです。この感染症とは別にザンビア国内、特に首都ルサカで毒ガスを散布する事件が起き、関連した殺人があり

ました。現在は落ち着いているというのですが、治安が守られるようお祈りお願いします。

2月は感染症の広がりが拡大する前に予定されていた教会を巡回させていただきました。上田教会、神学院教会、安食教会そして深川教会を巡回報告させていただきました。上田教会の巡回は初めてでしたが、主牧の古川先生とは神学院で学院生としていた時に学務課で奉仕されていたことで、先生を知っていましたので、上田の地で再会することができ感謝でした。

第二聖日は神学院教会で奉仕させていただきました。午後にはユースとの交わりがあり、その後、ベテルハウスを見せただけの機会がありました。私にとつてはベテルハウスが完成してから初めての見学でした。生まれ変わったベテルハウスを見せていただき、IGMの未来に神様のさなる期待を感じました。第三聖日は安食教会を巡回させて頂きました。安食教会も初めての巡回でしたが、新会堂となった安食教会で、島田先生をはじめ皆様とても気さくに声をかけてくださり、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

第四聖日の深川教会も初めての巡回でした。鉦路教会とネット中継で繋がっており、礼拝がライブ配信され、鉦路の方々とともに礼拝を守る恵みの時でした。今回のウィルスの蔓延する前であったこともあり、予定どおりの巡回が許され感謝でした。



蔦田緑乃 * 2020年3月8日

「弱った手を強め、よろめく膝をしつかりさせよ。……神は来てあなたがたを救われる」(イザヤ三十五章3、4節)

2月号での御報告に誌面が足りなくて御報告できません主の御業をカンボジアニュースレター14号でご報告しましたが、届いていない教会や個人の祈り手には是非お知らせしたいと思い、重複する方々には申し訳ありませんが、お祈りの継続をお願いするためにレターに記した内容を凝縮してお伝えしたいと思い「その後のヴァンディ師からの報告」と題して認めております。1月半ばに私が帰国した後、ヴァンディ師は選抜招待状によるマニラでの伝道者訓練セミナーに出席されました。帰国後すぐスカイプ交信で報告と証しを聞き、その内容をお祈りの答えとしてお分ちせずにはおられません。セミナーでの中心テーマ「次世代への信仰継承の責任」として5日間に亘る講義は彼の信仰と伝道に

対する姿勢の変貌の時となりました。ダビデ(第1代目)→ソロモン(第2代目)→レハバアム(第3代目)にみるイスラエル民族の霊的低下に、第1代目の信仰者とされた責任の自覚が如何に生ぬるものだったかを聖霊により示され、そこに膝まづいて悔い改め、献身を新たに帰路についた時から不思議な神様との歩みを経験させられつつあると興奮して証ししてくれました。帰国後、神様の使命を果たすための時間と生活を更に御奉仕に集中させるべく、テス夫人のお給料は半分以下になることも知りながらパートの仕事に切り替えること、ダビデ君の治療を打ち切り、時間と経済を主に捧げる決断をし主の導きの仕事を探したいと思うのでお祈りくださいと！でも彼の顔が本当に変わり、その後のスカイプによる交信では、彼の祈りの生活が変わり、早朝の密室の祈り、テス夫人との毎晩の祈りに主と共にご奉仕に当たる喜びの証しに、正直、彼の一時的興奮に終わるのではと心配した私の不信仰な思いは消え去り、主の御名を崇めました。テス夫人に「あなたは比国から帰ってから本当に変ったわね」と言われる程、個人生活と奉仕に変貌を与える御霊の御業で、祈りに主がお答えくださったことと私自身が励まされ、なお一層祈りの座での時を費やす術を教えられております。今後も聖霊のお働きを妨げることなく、救霊の面での結実をお祈りください。



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2020年3月10日

2月1日、2回目の手術室スタッフ旅行に参加。手術が入って一部責任者が急遽不参加になり、全体の点呼リストを預かった私が不参加と言っわけにもいかず、という状況。普段昼食の席にもつけないスタッフとの普通の関わりが不足している自分には必要、全部お膳立てされ、某宣教師のサポートで食事付き車付き日帰りのナクル旅行が破格の一人約五百円で参加できることはとても感謝でしたが、片付けたいことがあったり、ただの休息として週末を使いたいなあという思いもあったりしました。午前になってから帰宅、朝食兼夕食のような物をとって水筒を詰め替えて午前8時の出勤に間に合わせるような日や水分も充分摂れなかった日が増えてきたせいでもあります。一方で風邪のようなものが流行っていて、旅行の日には喉に違和感が始まっています。マウマウの反乱の時に隠れ家になっていたという洞窟の見学時

に崖渡りのようなことを少しした以外は、できるだけおとなしくして水分も少しづつ取るようにしていました。それでも咳が増え、月曜に出勤、火曜の朝だけ顔を出した後は自宅待機を勧められ、休むことにしました。数日経って声もおかしくなってきたので受診。検査で大きな異常は見られないが、ウィルス性の風邪ではないかと薬を処方されました。高熱も強い痛みもなく、倦怠感薬の副作用の可能性もあり、休むのは申し訳ない気もしましたが、インフルエンザでも一週間は自宅待機だからとさらに一週間程休みました。礼拝以外の宣教師同士の折衝会やバレンタインにちなんだ企画された女性宣教師の女子会(?)などの集まりを極力避け、水分と栄養補給と休養と保温に努めました。少し前にトラック半分の薪が手に入っていたのは感謝でした。倦怠感と気力の減退であまりはかどりませんでしたが、まとめて届いていた献品整理を少しする時間も取れました。勤務に復帰してからも、体力や気力が戻るまではさらにかかりました。

その頃はまだ冗談として「例のウィルス?」と言われたりしていましたが、2月も後半に入ると、コロナウィルスの影響や対策がケニアでも大きく取り上げられるようになってきました。公的な発表ではまだ感染者が出ていないとなっていますが、国内で感染疑いの人が検査を受け、陰性だったというニュースが報道されるようになりました。こちらでは一般の人が日本のようにマスクをする習慣が無く、咳のひどい時にマスクをしていると、「何?」とケニア人だけでなくアメリカ人からも聞かれたりします。まだ一般の人がマスクをする光景は見られませんが、2週間程前に、使い捨てマスクの値段が、従来の5倍近くになっている報告を受けました。早速、無駄遣いに注意、と呼びかけつつ、再利用と滅菌が可能な布製マスクを裁縫室に注文したところです。

結核等の予防のため、咳エチケットは前から言われていますが、問題は挨拶の主流が握手であること。「今度から挨拶は肘と肘?」「いや、足と足?」などと言われています。関連は不明ですが手拭き用紙タオルの在庫が無い状態が続く、日本からのタオルが再び主流になりつつあります。

豪雨続きの影響でマラリアが流行中とのこと。高地のテヌウェク滞在中も予防薬を飲むように通達がありました。イナゴの被害も報告されています。今はまだ緑したるテヌウェクですが、ここから90キロ程のナロクまで被害が迫ってきているという報告もあります。天候の変化、病気の知らせ、イナゴの被害などの中、平安が保たれ、こんな時だからこそ福音を伝え続けることができそうです、なおテヌウェク病院の働きのためにお祈りください。■

お祈りの課題

■会計報告2月分
宣教献金 一、二三三、四一八円
月平均 二、二九六、六〇一円

ケニア(葛田就子)

◆健康が回復途上にある感謝
◆マラリア、新型ウィルス、イナゴ、テロ等から守られるように
◆麻酔科、整形外科を始めとする働き人(ルカー10章2節)が起されるように
◆香港(鹿島)

◆コロナウィルスの影響の中、経済的な困難に直面している方々の上に助けがありますように
◆広州への出入りが再び許された後の歩みと働きのため

◆牧師の健康の回復のため
◆台湾(平瀬)

◆新型コロナの感染拡大の中、台中・台南日本語礼拝を継続し続けることができ、感謝します

◆台湾では、今のところ、防疫対策が功を奏しています。主のみ守りがあり続けますように

◆子どもたちの進路のためにお祈りを感謝します。進学に伴い、日本に送り出すことになりました。4月からの学校生活のため、台湾にとどまる私共のため、導きと助けがあるように

◆台湾の政治、経済、治安の安定のため。新型肺炎の終息のため

◆ザンビア(根廻)

◆毎回の巡回報告が守られ祝福されている感謝

◆日本滞在がまもられるように

◆ザンビアの治安のために、感染症から守られるように

◆ザンビア(富澤)

◆充分な雨が降るように

◆主の証しとしてクリニックが歩んでいけるように

◆健康管理と霊の営みが支えられるように

◆カンボジア(葛田緑乃)

◆フロンペン市内、地方教会の伝道者方の霊的成長と一致のため

◆テス夫人がヴァンディ師と奉仕を共にできる道が開かれ、ダビデ君の治療も継続され、生活のための働き場が与えられるように。また給水の供給が解決するように

◆グレッグ宣教師の牧する教会の定住的な集會場が与えられるよう

◆フィリピン(豊田)

◆帰省中の学生たちの学びのために(課題が与えられています)

◆非常事態によって帰省した学生たちが、健康的にも霊的に守られて無事に帰ってくるのができま

すように(4/14予定)

◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように

◆グローバルユースミニストリー(葛田康毅・由理)

◆宣教師が離任するGYM(安達代表と今後の働き)が、祝され、ディアスポラ宣教の理解と実践、協力がこれからも進むように

◆バイブルタイムから東京日暮里国際教会に引き継がれた中国語教会が祝されるように

◆2年間の貴重な宣教の働きが許された感謝

聖宣神学院報



Immanuel
Bible
Training
College

正直だっただろうか

院長 ● 河村 從彦

「主は心を見る」

(第一サムエル一六・七)

若い頃、ある日の礼拝で、牧者公禱をいつものように献げ始めました。「神さま。今日も共に礼拝を祝うことができたことを心から感謝致します」。その瞬間、フト思いました。「正直、心から感謝してないなあ」。その頃、教会にお仕える意味もわからず、指導するのが牧師だと思い込み、密かにマウントを取っていました。

やはり正直でないのはダメだなと心底思いました。感謝、感謝とことばを連呼すればますます正直でないなと。気持ちがあればある

なければ、自分そのものです。その点、感謝は正直です。

現場で気持ちを押し過ぎれば、プロとして失格でしょう。しかし神さまとの関わりでは、ネガティブな感情も含めて寸分の不正直さも無意味です。むしろ、キリスト者然とする、牧師然とする不正直さが、神学生に、信徒の方に、キリスト者ではない方々に偽善と映っていたかもしれません。

送り出す時期を迎え、神学生に對して正直だっただろうか、あるいは指導しなかったただただか、人を愛すべき「対象」としてしか見ていなかったか、あるいは一人



ベテルハウス（旧女子寮）前の土留め工事が終わりました

の人格として真に尊重できたか。恵みに生きるとは正直に生きることです。正直でなければ、恵みでやっていただく以外、自分に可能性がないことがわからない。愛せなどと言えないはず、でも愛するという陳腐なことばを使ってしまうイヤらしさに気づいていない情けない自分なのだということがわかりません。しかし、自分を知っていたく正直さは楽です。恵みから逸れる現象があります。律法主義、禁欲主義、隠遁主義、モラリズム、根性論、いずれも一見すばらしく見える分、正直であることを妨げる意味で厄介です。神学教育の現場では深刻でした。区切りを迎えて想います。正直だっただろうか。自分の弱さ、罪深さを知れば、弱い、失敗した人罪ある人に憐れみの心を忘れないほど、自分に正直だっただろうか。

神学エッセー

青年宣教への取り組み

③ 青年宣教は覚悟が必要だ



葛田聡毅

いると、その分カルチャーショックも大きくなります。青年宣教に関わる人は、世代間「宣教師」です。相手の文化に迎合するのではなく、此方の文化を強要するのではなく、互いの文化の中で福音を共有する作業が必要となります。簡単に「中高生」というまとめ方をしますが、中学生と高校生はお互いを「同世代」とは意識していません。まして我々は…。

多くの宣教地では、その働きを現地だけで支えることができないので、国内の教会から宣教献金を献げて支援します。子育てをする時に子供は自分で捻出できないので、親は何とか必死にやり繰りします。教会や教団が子供や青年を本気で育てようとしたら、子育てと同じ覚悟、時間、愛、経済等をもって臨む必要があるのではないのでしょうか。子育てに手抜きをしたら、たとえ心ならずも届けなかったのだとしても、重大な結果を刈り取らなければならない場合があります。次世代宣教、青年宣教にも同じことが言えるのではないのでしょうか。親が自分の老後を考える前に、まず子育てを優先し、その将来に投資しなければ、その家系は途絶えます。

戦後から今日まで、目まぐるしい社会と価値観の変化を通してきた日本のキリスト教界全体が今、次世代宣教の重要性を感じながら産みの苦しみをしています。改めて真剣に祈り、協力しながら取り組む時ではないでしょうか。

◆一年間の学びを振り返り

やつと二年か、もう二年か

短期コース 田中利道

「あなたの重荷を主にゆだねよ。主があなたを支えてくださる。」（詩篇五五篇22節）「欄外には「あなたに与えられるもの、あなたの将来」と書かれています。」

私たち神学生のために祈り、支えてくださっていることを心から感謝いたします。そのお支えこそ、主が約束してくださった、「主があなたを支えられる。」という約束そのものです。

やつと1年か、もう1年か？私にはもう1年だと感じました。本当に、心燃やされて、主の恵みのみことばを学んで来れたからです。

それぞれの学科は必ず課題が出だされ、学期末に提出します。私は早めに取り組み、調べ、資料を集め、考え、そして下書きし、それを仕上げていきます。こんなことは、今までの会社員生活ではしてきませんでした。難しいことやいやなことは後回しにするタイプでしたのに、どうしてしまったのでしょうか。先に大変なことから課題を初めたので、締切より早く提出することができました。

今は、大先輩の牧師が図書館

に寄贈したカードシステムをパソコンに入力して、その学び方を学んでおります。良き先輩の歩かれた道は、ならされていて、歩きやすいからです。ああ、こんなふうにとまわっているんだ、とかこの切り口はすばらしいとか、思いながら、入力しています。私が神学院で学んでいるのは、学び方を学んでいるのだと思います。

もう一つ、以前は本を読んでいてもすぐ疲れてしまったのですが、たくさん読まなければならぬ課題をこなすために、結構な数の本を読みました。これも良い訓練だと思いました。もう1年、皆さまのお祈りに励まされて、頑張っていくつもりです。

◆一年間の学びを振り返り

神さまに心を留める

正規コース 石川 順

「父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。」（マタイ五・45）

聖宣神学院に入学し、早くも一年が経ちました。4月、家族3人



神学院の桜が開花しました

じゃあ、クリスチャンってなんだ？と考えました。その中で出てきた答えが「神様に心を留める者」です。全ての人に神様の恵みが注がれている。ただ、その恵みが、私たち人間を造られた神様からの恵みだと知り受け取ることができかどうか、それが信仰なのかと思います。

新しく始まる歩み、どんな時も神様に心留め、全ての恵みは天から注がれていることを覚えていたいと思います。

◆後期の学びを振り返り

主に助けてもらって

聴講生 石川牧子

「しかし、ユダヤ人の長老たちの上には彼らの神の目が注がれていたので……彼らの工事は中止させることができなかった。」（エズラ記五・6）

たくさんのお祈りを心から感謝を致します。秋入学をし、後期の学びを終えました。祈って、初めての学びは旧約概論一科目のみを履修し、私が学んでいる時間は私の母に神学院の家族寮に来てもらい、3歳の娘と一緒に過ごしても

らいました。預ける経験があまりない中で、親子共々ドキドキの後期スタートとなりました。私が学んでいる間、「イエス様が娘と一緒にいて下さった！」これが後期の実感です。私は授業を重ねていく中で、いつの間にか、本当に安心して学べるようになっていました。私の勉強の方は……というと、元々、勉強しなくては駄目の道を逃げていた者ですが、これが本当に楽しかったのです。旧約聖書を徒歩でじっくり味わいました。聖書の地理的背景、歴史的背景とともに学び、分厚くて難しい聖書のイメージは、飛び出す絵本へと変わりました。だいぶ大きな変化です。また、変化といえば、家庭。子育ては完全に子供中心の生活で、バタバタしてディボーションができなかったり、祈りの時間が持てなかったりという日々を過ごしていましたが、授業とチャペルタイムという時間が与えられ、確実に神様と聖書に向かう時間が確保できました。この時間によって、自分自身がより神様の方向を向くこととなり、それが家庭の中に繋がっていききました。失敗ばかり、情けなくなることばかりなのは変わりませんが、そこに主がいつも目を注いで下さって、いつもその欠けを補って下さっているところ、ここに立たせて頂きました。春から新学期を迎えようとしています。この神様の眼差しを感じながら、また声を聞きながら、歩みを進めさせて頂きたいと思っています。

私の神学生時代 すべてが益となって 23期生●大山晴美



「敬虔のために自分自身を鍛錬しなさい。」第一モテ四章7節。私はBTC23期生として入学しました。女子10名、男子5名の賑やかなクラスでした。授業前のおしゃべりも多く、ある日、男子の神学生が前に出て行って、黒板に「静かにしてください」と書かれて、やっと静かになりました。

女子寮の先生方、上級生の方々にも大変な思いをさせたことでしょう。でも、皆優しく指導してくださり、感謝しています。授業は先生方がご自分の牧会経験の話を含めて教えてくださり、とても教えられました。特に河村襄先生が「したたかに生きなさい」と言ってくださったことが、あとで大きな支えとなりました。落ち込みそうになるとき、そのことばで立ち上がるのが何度かありました。薫田二雄先生からは「クールヘッドとバーニングハートを持ちなさい。逆になったらだめだよ」とユーマラスに教えていただきました。今も心に燃える火が消えることなく保たれていることを感謝しています。

経済問題では、家からのサポートが来なくて困っていたとき、原先生（現田中師）に相談したら「そんな時こそ祈るべきではないですか」と言われ、1週間程祈りました。その時私の窮状を知らないはずの3箇所から送られてきた献金、ちょうど私が必要としているものでした。その事を通して「私の経済と必要は主が責任を持って下さるのだ」と確信することができました。女子寮の集会では、霊的な細かい指導を頂きました。特に心に残っているのは原先生（現田中師）が「聖霊の声に耳を傾けて従いなさい。もし違っていたとしても、従っている中に聖霊の声がどうかが少しずつ分かってきます」と、敬虔の生涯の実践を教えてくださいました。国光先生からは生活の何気ないエチケットも教えていただきました。「パンを食べる時は歯型を残さないように、その両端を少しずつ食べるのですよ。でないと歯型がそのまま残っておかしいでしょう」と皆を笑わせながら教えてください、なるほどと思った私はそれからずっと実践しています。薫田眞實先生はお父様の最期の時、上を見上げて顔を輝かせておられた、私もそれを見習いたいと言っておられました。BTCは、私の伝道者生涯において、なくてはならない訓練と学びの時でした。今人生の後半に入って、体の衰えを感じていますが、主を見上げつつ走りたいと思っています。

同窓生の近況

51期生

浜田教会●渡辺 寛



2003年に聖宣神学院の学びを修了し、4月から母教会の中目黒教会で副牧師として奉仕に加えていただきました。その間、教会全体のお手伝いに加えて、教会学校、ナザレ会（子育て世代）に携らせていただきました。2015年任命で生まれ育った東京を離れて4月に京都西教会へ、8月に浜田教会に途中転任となりました。転任と同時に子どもたちは独立、転任直後に母が召天、浜田へ移り翌年に父が召天と色々なことがありましたが、今年で浜田教会に遣わされた5年目の奉仕に入りました。

転任までは副牧師の立場で大きな責任を持たずに任せさせて頂きましたが、転任後は責任を多く与えられて体重も増えてしまいました。が、昨年4月より妻が信徒伝道者としての立場で援護してくれることになり感謝です。大きな教会で学んだことが今生かされていることを実感して日々奉仕に励んでいます。 「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。」（創世記一二・1）

神学院スタッフ…恵みの想起

初代院長と私の献身②

図書館司書 三森春生

教団草創期、薫田院長は何人か福音派指導者たちとともに大学生伝道に力を注いだ。教団独自で伝道対象を学生に絞るほどのゆとりはなかった。超教派的に学生伝道を推進していたこれまた草創期のキリスト者学生会（KGK）に協力した。同じKGKに貢献した現「お茶の水クリスチャン・センター」（OCC、当時は学生基督教会館）創立者、アイリン・ウェブスターミス宣教師が、バックストン師と同じ英国の日本伝道隊（JEB）所属であった関係であろう。私がそのKGKの夏期学校で薫田院長の説教を聞いて救いにあずかり、IGMの教会に導かれ、さらには伝道者の仲間に加わっていただけたのは、奇しい御手の業と言わざるを得ない。

●新型コロナウイルスの影響で卒業式・終業礼拝は中止、卒業証書はそれぞれ別の機会に授与しました。4名の卒業生、1名の聴講終了の方が巣立って行かれました。

●この春は2名の方が入学予定です。夫婦で入寮を希望している方のため、本館1階の管理人室を改修する方向で検討しています。

●年会は中止、しかしキャンパス整備は計画通り進めています。

●厨房がきれいになりました。

●厨房の荷物置き場のトイレは、衛生管理上、外から出入りできるように壁を移設、図書館やボランティアの方々は食堂を通らず使っていたできるようになります。

●70周年記念工事の最後、ペテルハウス前の土留めを行いました。

●ペテルハウスは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、しばらく閉鎖しています。

●神学院祈り会はいりません。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。2月の会計報告をさせていただきます。

2月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥642,025
教会団体による「神学院献金」
¥326,700
合計 ¥968,725
その他の献金（一時・特別）
¥137,250

・振替：00230-0-10138

学苑だより



公報

本部通達

「神こそわが岩わが救いわがやぐら。私は決して揺るがされな

い。」(詩篇六二篇二節)

先月予定されていた第75次教団

年会は新型コロナウイルスの感染拡大によつて中止となり、大変残念でした。祈り備えてくださった多くの方々

に主のお報いをお祈りいたします。6月に予定されている事務年会のためにお祈りください。牧師の異動や変化のあった教会には、格別

な主のみ助けが加えられますようお祈りいたします。今月は受難週・イースターを迎えます。復活の主を仰ぎ期待する時としましょう。

■本部

6月8日(月)午後2時、9日(火)午前11時

会場 B T C ベテルハウス

招集されるメンバーについては2ページの説明をご覧ください。

〔辞令交付〕

今年年会時をもって、以下の先生方に教職、教職試験の辞令が交付されました。(括弧内は任命地)

▽教職辞令

大塚千穂子師(京都伏見教会)

▽教職試験辞令

峯尾 仰生師(北九州教会)

竹内 俊之師(姫路教会)

中尾 敬一師(武蔵村山教会)

同じく今年年会時をもって、4名の先生の引退が発表されました。貴いご奉仕に心から感謝し、また今後のご生涯に祝福をお祈りしましょう。

28日(火)北関東
29日(水)東関東

14日(火)近畿教区女性牧師の会

▽月例支援金について

今年度の教会月例支援金の申請を予定している教会は、申請書を国内教会局までご提出ください。

世界宣教局

▽根拠恵子宣教師は約5か月間の巡回報告を終え、4月20日にザンビアに再赴任されます。お招きくださいました諸教会、聖会に感謝いたします。

▽豊田常喜、恭子宣教師(フイリピン)は4月から帰国報告の予定でしたが延期となりました。日程は未定です。巡回を希望されていた教会にはご迷惑をおかけします。

教育部

教育部・信徒教育課

以下の方々の信徒伝道者資格の更新・新規認定がなされました。

更新

池田 光重兄(千葉教会)

斎藤 純雄兄(深川教会)

中山 朝雄兄(中目黒教会)

山口 松子姉(中目黒教会)

小原 一夫兄(浜松教会)

山田 由紀子姉(四日市教会)

阿部 妙子姉(別府教会)

山城 明兄(那覇教会)

前田 敦兄(武蔵村山教会)

渡辺 千佳姉(浜田教会)

大土井 智子姉(広島教会)

(新規)

坂本 淳兄(八王子教会)

(退任)

額田 昭兄(船橋教会)

竿代 丈夫兄(立川教会)

田中 美枝子姉(中目黒教会)

《青少年部》

*予定していた4日(土)の青年課運営委員会は中止いたします。

*西日本ユースキャンプ Re:旧西日本YS)はコロナウイルスの感染拡大防止のために中止といたします。次年度(2021年ゴールデンウィーク)に開催予定です。お祈りください。

▽第13回とにキャン

日程 8月10日(月) 13日(木)

会場 聖山高原チャペル

講師 朝岡勝師

(同盟・徳丸町教会)

テーマ 「メダリスト」 なくならないもののために」

▽第7回全国ユースステーション2020

日程 8月13日(木) 15日(土)

会場 B T C ベテルハウス

講師 松尾献師(KGK主事)

テーマ 「ダウト!!

「あたりまえ」を問う」

▽会議等中止のお知らせ

6日 女性部運営委員会(中止)

13日 信徒局運営委員会(中止)

29日 第一回イマヌエル信徒フォーラムはいずれも新型コロナウイルスの影響を考慮し中止いたします。

聖宣神学院

▽卒業生氏名 お祈りを感謝致します(男女別、ABC順、教会名は出身教会、コース名)。

峯尾仰生兄(別府、正規コース)

消息報告



染谷由美子師(大湊教会)のお母様、染谷巫美姉(中目黒教会員)が、3月2日(月)、97年余の地上生涯を全うして天の召しにあずかられました。ご遺族に主の慰めをお祈り致します。

小林佳師は、ご健康等のご事情のお申し出により休職されます。教報PDFパスワード 2952